

[長崎県病院企業団通信]

ふくよか



2018冬号

■長崎県病院企業団本部
■平成30年1月発行



目次 CONTENTS

P2…企業長より

-創設10年目の節目を迎えるにあたり-

P4…特集① 中堅職員研修

今年度の目玉はDPC！

P5…本部職員をつぶやき②

『コミュニケーション』

P6…特集② 国保データ

国民健康保険加入者の
平成29年度上半期の受療動向について

P7…地域から

壱岐病院…地域の見どころや病院での
取り組みをご紹介します

P8…Break Time

『チームワークについて考えること』

vol.
14

平成30年・年頭所感

―創設10年目の節目を迎えるにあたり―

企業長 米倉 正大



明けましておめでとうござい
ます。

今年もV・ファールレン長崎のJ1
昇格の年であり、長崎県全体にとっ
ても飛躍の年になる事を期待した
と思います。サッカーJ1の試合
は、年間20回近くがホームで行われ
ます。そのため、競技場のある諫早
市は全国から旅行者や応援団が長崎
を訪れることを見込み、早くも町の
売り出しに躍起になっています。こ
れにあやかり、離島地域にとっても
元気な年になってほしいものです。

時の過ぎるのは早いもので、我々
昭和の時代に生まれた者は特にそう
感じるのかもしれないが、平成に
なつて30年が過ぎようとしていま

す。平成生まれの職員は、全体でお
およそ15%、多い病院では25%を占
める勢いです。今後、これはさらに
大きな勢力となっていくことは確実
であり、昭和生まれが、肩身の狭い
思いをすることになるでしょう。世
交代代は世の常ですが、特に人手不
足が叫ばれている離島の病院では、
昭和生まれの人たちにもまだまだ20
〜30年は頑張ってもらわなければな
りません。

今年も病院企業団創設10年目にあ
ります。この10年を振り返ってみ
ますと、それぞれの地域に拠点病院
が出来上がり、この拠点病院を中心
として医療提供を行う体制が整いま
した。さらに長崎県病院企業団とし
て、組織の一体化に力を入れてきま

した。職員の意識改革を目的に実施
してきた新人職員研修、中堅職員研
修、幹部職員会議などは、その一環
です。まだ理想には程遠いですが、
これからも少しずつ病院企業団の職
員としての自覚を充実させてほしい
ものです。

また、昨年ようやく病院企業団の
すべての拠点病院が電子カルテの整
備を終え、今年からDPC参加病院
となります。これにより、自分たち
が診療した成果を数値化して見るこ
とができるようになります。今後、
DPCのデータを読み取り、分析す
る能力を身に付けることは必須で
す。各病院の事務部、特に医事を担
当する人は、データを分析したうえ
で、そこから見える自分たちの病院
の立場を全職員に情報共有してもら

う努力が必要となってきました。とはいえ、DPCデータの表す情報は難解です。そのため、企業団本部にDPC分析のプロを配置し、各病院の分析はもとより、職員研修も行っていく予定です。

一昨年から始まった「郷診郷創」は、第2弾が始動します。離島の人口減やこれに伴う高齢化は政治や行政の責任ではなく、若者が文化度の高いところで自分を試してみたいと素直に考える精神構造によることが大きいと言ってきました。次の10年間で確実に押し寄せてくる人口減少と高齢化の波は、今後も急速に容赦なく病院運営に影響を及ぼすことは明らかです。これまで通りの病院運営では限度があり、変化することが求められますが、この問題に医療機関だけで立ち向かい、解決するのは困難です。行政と住民と医療機関が一体となり、医療の質を低下させることなく人口減少に対処するための病院体制を作るにはどうしなければならぬか、考える時期が来ています。

例えば、一つの案として病院企業団での離島地域連携への導入が挙

げられます。実現すれば、離島間を結ぶ搬送手段として、いろいろな専門領域を持つ数少ない医療人の活躍の場を広げてくれることでしょう。

現場で活躍している人たちのいろいろなアイデアは、今後、貴重かつ重要な情報になります。皆さんからのご意見をいただきながら、実現していきたいと思えます。

今年もよろしくお願ひします。



~~~~ さようなら日生ビル ~~~~

県庁舎移転にあわせ、1月21日をもって病院企業団本部も現在の執務室がある日生ビルから離れることとなりました。

旧病院局・離島医療圏組合時代から10年あまり、企業団の変遷を見守ってくれていたこの場所から去るというのは、創設当時を知らずともなんだか名残惜しいものを感じます。

新しい執務室のある大波止ビルでも、心機一転頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

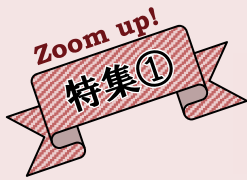
(ふくよか 編集担当者・O)



↑日生ビル外観。今まで本当にお世話になりました！



↑新執務室は大波止ビルの7階。海に面しており、長崎港を一望できます。



中堅職員研修 in やすらぎ伊王島

H29.11.13 - 11.14

今年度の中堅職員研修の目玉は「DPC」でした！



まずは打ち解けよう！

ビンゴやじゃんけんを交えた
自己紹介ゲームの様子

このほか、グループ対抗の
ゲームで盛り上がりました◎

安永副企業長から、日常の業務ではあまり意識することのない企業団の概要や経営状況のほか、平成29年から取組みを始めた郷診郷創について講演していただきました。

講演の中では、「中堅職員の皆さんに期待すること」についてのお話もありました。

中堅職員の皆さんに期待すること

病院企業団を支える「中堅職員」として、

- 地方公務員としての自覚と責任ある行動、自己研さん
- 「企業団組織目標」や「病院理念」の理解
※ 経営状況にも興味を持ってください。
- 他者（利用者、上司、同僚、後輩、委託職員など）への配慮

↓

楽しく活力にあふれた職場づくり

22



「DPCデータの業務への活用方法について」というテーマで、長崎医療センター経営戦略室 経営戦略専門職 河本卓也先生に講義していただきました。

① 出来高とDPC/PDPSの診療報酬の比較

従来の出来高請求	DPC/PDPS請求 (設定請求)
入院基本料	包括診療費
投薬・注射	
検査・レントゲン	
処置 [※]	
手術・麻酔	
リハビリテーション	手術・麻酔
放射線治療など	放射線治療など

※1 手術以上の処置は一般診療報酬に含められたりしています。

② 一入院一目的

DPC/PDPSでは、必ず「最も医療資源を投入した傷病名」を1つ選択する。

↓

つまり、2つ以上の疾病に対して治療を行った場合、原則として1つの疾患分の診療報酬しか評価されないことになる。
(一部、副傷病名としての評価はある。)

↓

したがって、入院したついでにこの検査もとか不定愁訴に対する他科受診などは収益(必要とした費用)としては評価されていないため、その費用は病院の持ち出しとなる。

③ なぜ、DPCにおいてクリティカルパスが必要とされるか

クリティカルパスとは 日本クリティカルパス学会HPから引用

各病態でひとつのクリティカルパスを作り上げるためには、医師・看護師をはじめとした皆さんの医療スタッフが、たぐさんの時間を費やして、その病態毎の異なる高い医療を求め、その結果をスケジュール化します。病気の治療内容とタイムスケジュールを明確にしたことで、患者さんは、その日どんな検査があって、いつ手術をして、いつ退院には退院出来るかということがわかるので、入院生活の不安を少しでも解消できることとなります。また医療スタッフにとっても、どのような医療行為をいつ、誰が行うのか、患者さんへの説明はどのようにするか、ということが明確になるので、チームとしての医療サービスをスムーズに提供できるようになります。

つまり、クリティカルパスの目的の効果は、

1. 適正化された診療・ケア行為の標準化を促すため
2. 在病日数の短縮を促り、在病日数短縮の影響による対価として差額を償還するため
3. コストの適正化を図るため

③/クリティカルパスこそチーム医療です！

④ まとめ(データの活用)

制度を理解し適切なデータを作成する

- ・ 傷病名を正しく付与する。(適切な病名を選択する。)
- ・ 実施した医療行為はすべて算定する。

データを可視化し現状を把握する

- ・ 症例ごとの比較、病院内での比較、過去との比較など、経年変化や自院の立ち位置を把握する。

必要に応じて改善等を行う

- ・ 医療の質向上、経営改善等を目的に、状況把握と改善、検証を繰り返し、PDCAサイクルをまわす。

①②/ DPC制度では、入院患者の「最も医療資源を投入した傷病名(診断群分類)」によって入院1日あたりの診療報酬があらかじめ決められています(①図の「包括診療費」の部分)。
決まった報酬の範囲内で収益を上げるには、コスト意識を持つことが大切！

病院企業団の離島基幹病院では、平成30年度のDPC導入に向けて準備を進めていますが、導入することでどういった変化があるのか、自分たちの業務にどのような影響があるのかについて理解を深めることができたのではないのでしょうか。

最終日の2日目は、「中堅職員として地域に信頼される病院作りに何ができるか」をテーマとしたワークショップを行いました。



各グループで寸劇やイラストなど、独自の工夫を凝らした発表を行いました！



参加された職員のみなさん、
おつかれさまでした❀

本部職員のつぶやき②

本部職員が日常のあれこれを
つぶやくコーナーです。



「コミュニケーション」

企画経営班 中村盛嗣

4月から本部に異動して10ヶ月が経とうとしています。徐々に長崎での生活にも慣れ、充実した日々を過ごしています。先日、家族と京泊公園に行き、色とりどりの紅葉を見上げつつ、子どもと足元のドングリ拾いに夢中になりました。以前に比べて身体を動かす機会は減りましたが、気持ちの良い時間を過ごすことができました。

現在、医薬品などの共同購入事業を担当しています。薬品費は病院支出の中で大きな割合を占めるため、共同購入では購入先との交渉に時間をかけています。

病院勤務では他職種の担当と直接話し合うことが多く、お互い意見が伝わりやすい環境にありました。本部では多くのやり取りを電話で行うため、コミュニケーションが特に大事だと感じています。そのため、共同購入の交渉の際には、電話だけではなく、できるだけ直接会って話すように心がけています。

コミュニケーションの語源はラテン語で「他人と分かち合い共有する」ことを指します。こちらの要望を一方的に伝えるのではなく、購入先や病院と考えを共有することで、よい結果を出していきたいです。

コミュニケーションの幅を広げること、それが今後の課題であり、常に意識しながら業務を進めたいと思います。

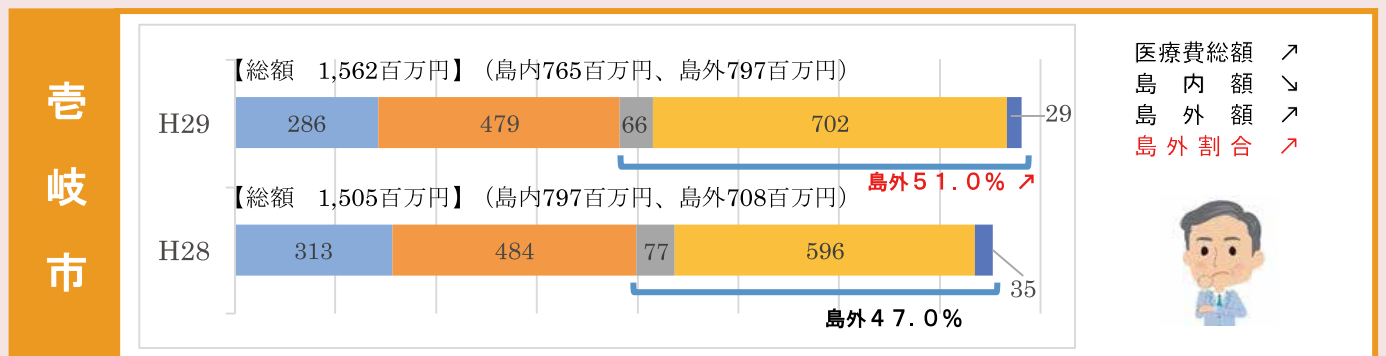
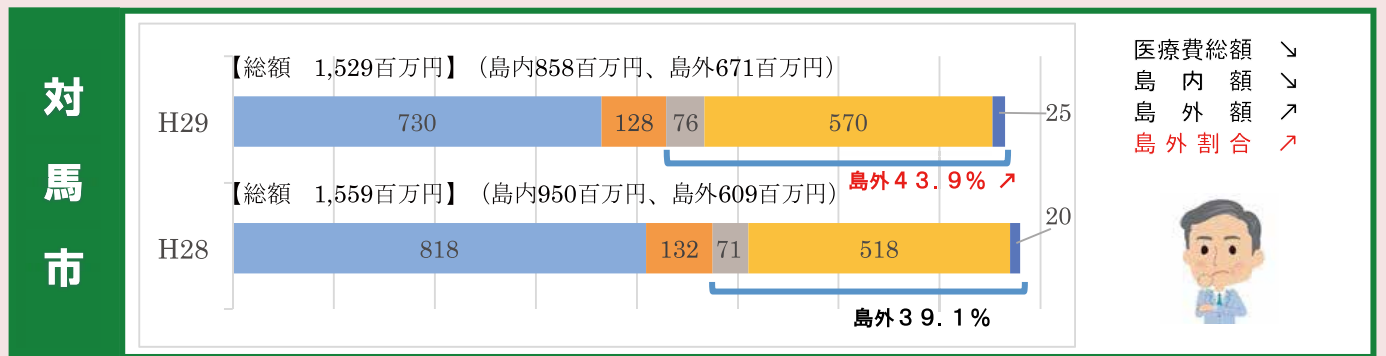
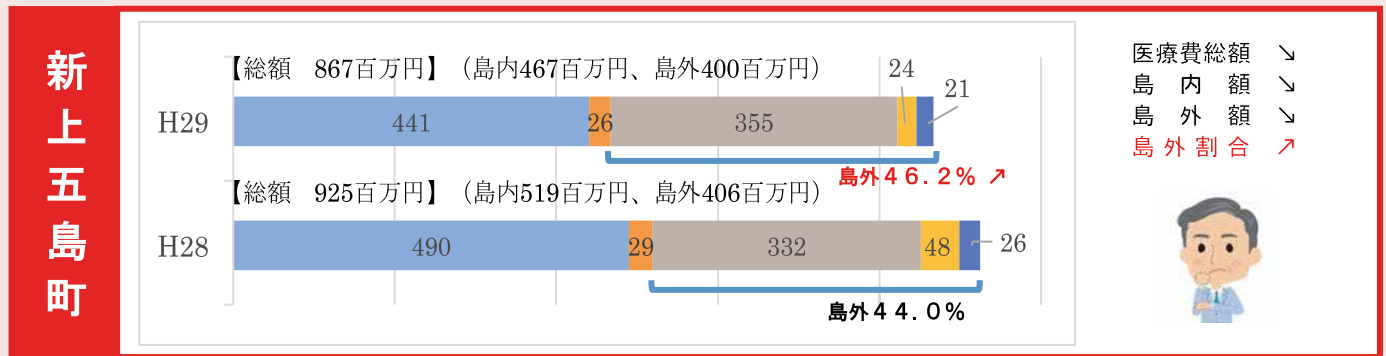
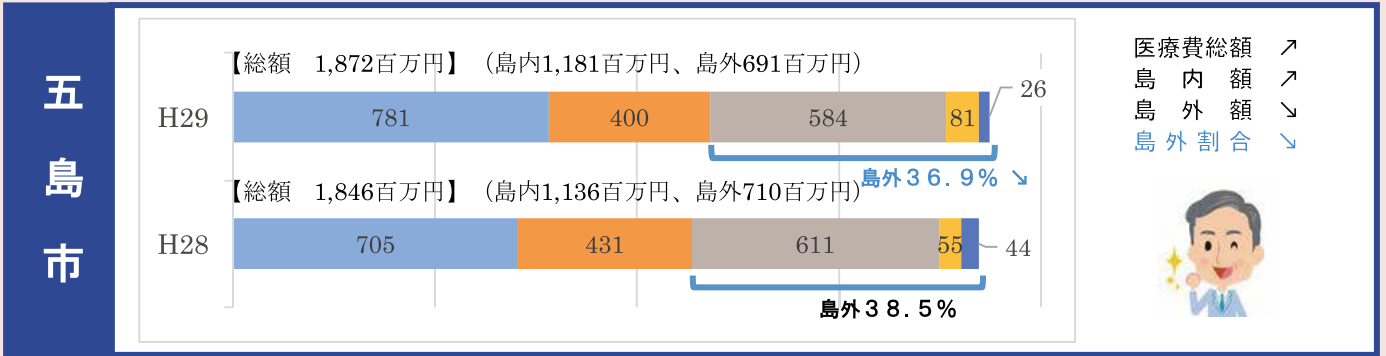
国民健康保険加入者の

平成29年度上半期の受療動向について

各離島の入院や外来受診による医療費は、どれくらい島外医療機関へ流れているのでしょうか？
国民健康保険加入者の受療動向を金額ベースで調べてみました。併せて島外医療機関が占める割合も記載しています。

『郷診郷創』では、島外受診の20%を島内受診へ回帰することを目標にしております

■病院企業団 ■島内(その他) ■島外(県内) ■島外(福岡県) ■島外(その他)





写真提供：壱岐市



{シリーズ} 地域から Vol.8

壱岐市 (壱岐病院)

地域の見どころや病院での取り組みなどについて
紹介していただくコーナーです

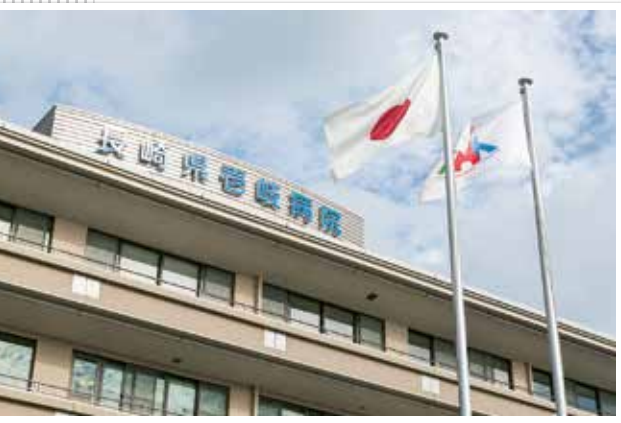
▶ 壱岐市について

壱岐市は、福岡県と対馬の中間地点に位置し、玄界灘に浮かぶ、美しい海とみどりに囲まれた自然豊かな島です。また、新鮮な魚介類・壱岐牛・壱岐焼酎など食の宝庫でもあり、年間54万人の観光客が訪れます。

県内の離島の中では、比較的アクセスに恵まれており、福岡市博多港とは高速船で約1時間、カーフェリーで2時間10分、佐賀県唐津港とはカーフェリーで1時間40分、長崎空港とは航空機で30分という立地にあります。九州本土とのアクセスの良さから、経済圏・医療圏ともに福岡への依存度が高いのが特徴です。



ブランドイカ
壱岐剣一いきつるぎ



▶ 壱岐病院について

当院は、平成27年4月1日に長崎県病院企業団に加入し、2年が経過しました。壱岐地域において、「患者さんが安心して治療・療養に専念でき、職員が希望と誇りを持って働く病院、先進的で温かい包括医療ができる地域の中核病院」を目指し、「救急医療体制の充実」「地域医療連携の強化」「教育研修体制の充実」「地域包括ケアシステムの構築」に努めています。

現在は、急性期病棟(2病棟)、地域包括ケア病棟、療養病棟の4病棟、合計228床を有する病院として運営しています。

今年度は、内視鏡治療件数の増加・外科の予定手術の増加等により収益が改善されているところですが、「郷診郷創(地域での受診が、地域を創る)」のスローガンのもと、域外への患者流出に歯止めをかけるべく、新たな医療機能の向上に取り組んでいるところです。

▶▶**CKD(慢性腎臓病)について**、医師の常勤化を行うとともに、壱岐市と協働して健診結果データを分析するなど予防対策を実施し、昨年4月からは新たにフットケア外来を開設しました。

▶▶**骨粗鬆症について**、島内の医療機関と連携して対策を協議し、院内に検討委員会を立ち上げ、看護師・栄養士・理学療法士等のチーム医療体制を整備しました。さらに今年度、骨粗鬆症マネージャーレクチャーコースを受講し、3名の「骨粗鬆症マネージャー」が誕生する予定です。今後は、外来での紹介、骨塩定量の器機活用等を行いながら、予防対策を積極的に進めていきたいと思ひます。

今後も、専門外来の充実を図るとともに、島内で完結できる医療については、島内で提供できるよう医療機能の更なる向上に努めてまいります。



離島透析治療を担う治療検査センター職員



骨粗鬆症マネージャー誕生予定!



Break Time



「チームワークについて考えること」

今日は、私が日頃から「チームワーク」について考えていることを述べてみたいと思います。

「チームワーク」とは、「お互いに助け合うこと」だと考える人は多いと思います。私もずっとそのように考えてきました。しかし社会人になって、部下を持つ身になった頃から少しずつ考えが変わってきたように思います。助け合いの精神を持つことはもちろん大切なことだと思いますが、お金をもらって仕事をする、いわゆる「プロフェッショナル」の世界では、一人ひとりが自分のなすべきことを認識し、それを責任もって行うことによって、チームとしての仕事（目標）を処理（達成）することが「チームワーク」なのだと思うようになりました。

もう去年のことになりましたが、V・ファーレン長崎がJ1（高田社長に敬意を表して「ゼイワン」と読んでください。）昇格を成し遂げられた最大の要因が、この「チームワーク」にあったのではないかと思います。J1昇格を共通の目標に掲げ、すべての選手が自分が試合に出たときを想定して、90分間自分の持ち場での責任を果たせるよう練習の時（あるいは生活面も含めて）から努力を続け、それが試合で発揮できたからこそ、あの成績が収められたと思うのです。

職場にはいろいろな人がいて、いろいろな考えを持って仕事をされていると思いますが、少なくともチームで仕事をする場合には、チーム員それぞれが日頃から自分の技術や能力を高める努力をすることに加え、チーム員がチームの目標を理解（共有）して仕事に取り組めるよう、リーダーやマネージャーがマネジメントしていくことが求められているのではないかと思います。

新年早々固い話になってしまいましたが、新しい年を迎える今だからこそ、思いを新たにしてみんなで頑張っていきたいと願っています。（V・ファーレン長崎の応援もよろしくお祈りします。）

（文：副企業長 安永 留隆）

編集後記

今回、はじめて編集に携わった新人です。出来上がった広報誌を見るとあまりピンときませんが、いざ自分がその担当をしてみると…v o l .1から担当されていた方々が工夫を凝らしてきたんだろうな～というのが伝わってきます。文章を読みやすくするために文字幅を微調整したり、誤字脱字がないかチェックしたり、見栄えが良くなるようにアレンジを加えたり…そういった過程があって1冊の広報誌ができています。これからもご愛読よろしくおねがいします。

（ふくよか 編集担当者・M）

ふくよか

表紙のはなし
犬の名前…「との」♀
特 技 …タッチと待て
食いしん坊だけベジタリアン。
今年の干支は「戌」です。十二支の
11番目にあたり、前年の「酉」には
「実る・熟成」という意味があり、
「戌」には「収穫」の意味があるそうで
す。

平成30年1月発行
編集・発行／長崎県病院企業団本部
〒850-0033 長崎市万才町4-12 日本生命ビル旧館6階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
※平成30年1月22日より下記住所へ移転します
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を
どんどんお寄せください！



長崎県病院企業団

検索